

八幡照子さん

ラジオでは戦争の話ばかりで、国民学校に入学できたが、上級生は毎朝行進していた。戦争が行われていたときはすいそん、どうすいそんが主食だった。

＜原爆＞

5〜6メートル飛ばされた。そのときは、何が起きたか分からなかった。その日は生きのびても、放射線などで数日後に亡くなった人は多かった。原爆が投下された後は、黒い雨が降った。通っていた学校の校庭は火そう場になり、亡くなった人は焼かれた。(おまも2000人)

＜モーワード！＞

「命があれば何でもできると思わない？」

家族などと仲良く暮らせなきゃ、

「本当に、たいない。」

それな言葉すね！

平和資料館

一発の原子爆弾で広島は焼け野原になった。まさに地獄。空は灰色に染まった。かつて見たことのない大爆煙。当時の人の服はギリギリに破け、血のあとも残っている。

＜石に残る影＞

原爆の熱線により階段が白っぽく変色し、人影が残った。

＜伸ちゃんの三輪車＞

真茶色にさびて細い鉄骨が残っている感じになった。

＜真黒なお弁当＞

容器は変形し、食べ物は真黒だった。

＜焦土に咲いたカactus＞

75年間は草木も生えないと言われていた広島に初めて花を咲かせた。